| 研究分野 | 沿岸魚類資源動向調査(底魚魚類調査) | 部名 | 漁業開発部 |
|---|---|---|---|
| 研究課題名 | 資源評価 | | |
| 予算区分 | 県単 | | |
| 試験研究実施年度・研究期間 | H.１１～H.１８ | | |
| 担当 | 原子　保・小野　真弓 | | |
| 協力・分担関係 | なし | | |

〈目的〉

漁獲対象となる底魚類の単位面積当たりの現存量を調査し、現状の把握と調査の有効性について検討する。

〈試験研究方法〉

日本海、津軽海峡及び太平洋海域において34ヵ所の調査点を設定し、青鵬丸（青森県水産総合研究センター試験船65トン1000PS）により、4～10月にかけて網口約2mのオッタートロールを使用して引き網時間約30分の調査を実施する。

曳網面積は、実測値に近づけるため0.01k㎡当りの現存量とする。

正規分布もしくはそれに近いデータが得られた調査点を調査対象とする。

〈成果の概要・要約〉

日本海：ハタハタ

4月中旬から5月中旬にかけて30調査点において、5調査点で5kg以上の漁獲があった。

津軽海峡：マダラ・スケトウダラ

15調査点のうちマダラは4調査点、スケトウダラは2調査点で5kg以上の漁獲があった。

6月上旬から下旬にかけて60g程度の幼魚を漁獲した。

太平洋：マダラ

20調査点中4調査点で5kg以上の漁獲があった。

太平洋：スケトウダラ

20調査点5中調査点で5kg以上の漁獲があった。

いずれの海域も漁獲対象となる魚類はほとんど漁獲されず、稚魚や幼魚が漁獲された調査点があったものの、その分布状況は「点」状であり、5kg/0.01k㎡以上漁獲できた調査点はマダラ7調査点、スケトウダラ8調査点でしかなかった（表3)。2魚種の体長組成を図2に示す。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表３ 0.01k㎡当たり5kg以上の現存量があった調査点（単位：kg）

| | 80m | 100m | 135m | 150m | 160m | 200m | 250m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐井6/18 | | | ※14.5 | | | | |
| 佐井6/18 | | | | | ※15.5 | | |
| 大畑6/7 | | | | | ＊16.1 | | |
| 大畑6/17 | | | | ※21.4 | | ＊11.3 | |
| むつ小川原6/14 | | ※11.9 | | ＊19.1 | ※6.2 | ＊44.9 | |
| 百石6/13 | | | | ＊21.1 | | | |
| 百石6/15 | ※38.6 | | | | | | |
| 塩釜6/8 | | | | | | | ＊22.2 |
| 塩釜6/13 | | | | ＊15.2 | | | |
| 塩釜6/14 | | ※10.7 | | | | | |

※：マダラ、＊：スケトウダラ

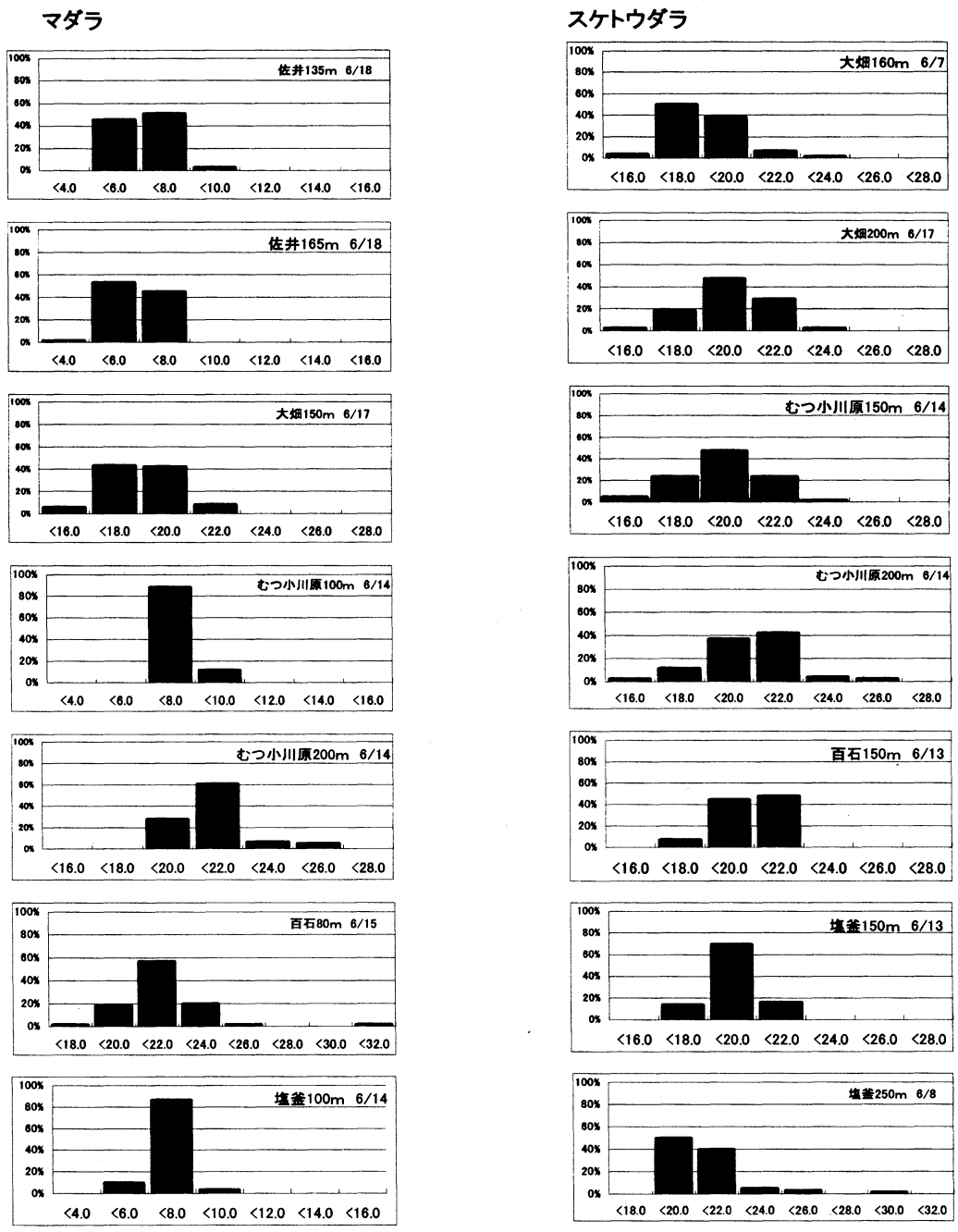


**図 2 マダラ及びスケトウダラの体長組成**

**〈今後の課題〉**

今後調査を実施する場合には、ハタハタは 4 月下旬から 5 月中旬、タラ類は 6 月上旬から中旬まで、調査回数は 1 調査点 1 回で十分であり、両魚種についてはそれ以上の調査は必要ないであろう。

**〈次年度の具体的計画〉**

未定

**〈結果の発表・活用状況等〉**

なし